寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の"いま"を伝える情報誌

vol.21

巻頭インタビュー

真言宗善通寺派管長
総本山善通寺 第58世法主

菅 智潤

特集 1

自ら活用すれば、
可能性は広がる

寺社とドローンの
これから

寺社Now

寺社の“いま”を伝える情報誌

Vol.21

02 巻頭インタビュー
親しまれてきた価値を広めていく
真言宗善通寺派管長
総本山善通寺 第58世法主
菅 智潤

08 新風
大本山建仁寺に初導入のセルフ撮影サービス／絵解きロールアップスタンド／楽天LIFULL STAYと「テラハク」の和空が業務提携

特集
自ら活用すれば、可能性は広がる
寺社とドローンのこれから

10 今後期待される3つの活用法とは

12 真言宗御室派 総本山仁和寺（京都府）
人の手の届かないところまで高画質撮影。寺域を完全データ化し、未来へ繋ぐ

14 真言宗豊山派 東光山真珠院岡寺（奈良県）
災害の記録を克明に記録することで後世の防災に役立てていく

16 曹洞宗 宇津山正太寺（静岡県）
ツツジの見頃をチェックしてほしい 副業目的から寺のPR活用へ

18 天台宗別格本山 書寫山圓教寺（兵庫県）
可能性を閉ざしてしまってはいけない。だから寺院から、多様な活用法を発信する

20 西武鉄道×ドローン撮影ツアー 協力／三峯神社（埼玉県）
西武鉄道とドローン事業社共催の撮影ツアーが三峯神社の協力で初開催

伝統を未来へ〜From the Past to the Future〜
22 「消しゴムはんこ」で仏の教えを説く／極楽寺第19代住職・麻田弘潤
23 「神社の心」を出版物で届ける／杜出版・青木 康

うちのお宝
24 浄土宗大本山増上寺別院 寿亀山天樹院弘経寺／千姫姿絵
25 香取神宮／古瀬戸黄釉狛犬
26 全日本社寺観光連盟「社寺観光 巡礼の旅」事業で調査を実施
28 テラハクレポート／日蓮宗 大和仏舎利塔 宝塔寺（奈良県）
30 ［特別寄稿］野田博明「風まかせ」
第21回「ポイントカードとお大師さま」

SEKISUI HOUSE
積水ハウス株式会社 大阪特建支店
〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F

土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。
0120 FreeDial 0120-131-470
大阪特建支店 検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。

積水ハウスの賃貸住宅
「シャーメゾン」総合カタログ

積水ハウス大阪特建支店 実例集
「Best Solutions」

真言宗善通寺派管長
総本山善通寺 第58世法主

菅 智潤

すが ちじゅん

■弘法大師空海上人が生まれた佐伯家の邸宅跡に立つ善通寺は、平成18年に創建1200年を迎え、5年後の2023年には弘法大師空海御誕生1250年を控えています。四国八十八ヶ所霊場の中でも特別であり、善通寺市の観光にとっても中心的な存在である善通寺では、2023年に向け、さまざまな施策を進めています。40年以上善通寺にご奉仕され、本年、第58世法主となられた菅智潤管長に、地域と共に進む善通寺と寺社観光のこれからについて、お話を伺いました。

菅 智潤
昭和24年生まれ。種智院大学卒業後、総本山善通寺での要職を歴任し、平成30年3月1日に第58世法主・真言宗善通寺派管長に就任。学校法人真言宗洛南学園理事、学校法人綜芸種智院理事のほか、四国八十八ヶ所霊場会総裁も務める。

「お大師さん」と親しまれてきた価値を広めていかなければ

「御誕生所」という存在は地域にとって特別なもの

――弘法大師空海上人御誕生の地として、総本山善通寺は四国の方にとってもお遍路に来られる方にとっても特別な存在です。

弘法大師空海さまは、宝亀5(774)年に現在善通寺の立つ讃岐平野の西端で、父・佐伯直田公(さえきあたいのたぎみ)、母・玉寄御前(たまよりごぜん)の子としてお生まれになりました。善通寺は唐より戻った弘法大師空海さまが父親から寄進された土地にお寺を建立したのが始まりと伝わっています。現在の善通寺には西院、東院がありますが、西院が佐伯家の邸宅のあった場所で、鎌倉時代に「誕生院」ができ、江戸時代までは「誕生院」と善通寺別々に住職を置いていたのですが、明治時代に入り、現在の形になりました。

他所の方は「善通寺へ行く」とおっしゃいますが、近隣では「お大師さんへ行く」と言います。御誕生所という場所ゆえに、親しみを込めてそうおっしゃっていただけています。この親しみやすさは、これからも継承していかなければと感じています。また、その価値も広めていかなければなりません。しかし善通寺はこれまでおとなしくしていたと言いますか、地元の人たち以外には、積極的に存在をアピールしてきませんでした。事実、弘法大師ゆかりの場所と聞けば、多くの方が高野山を思い起こされることでしょう。これからは「弘法大師空海御誕生所」という価値をより広く知ってもらえるよう、努めていかなければと強く感じています。

仏の教えを伝え お寺と新たなご縁を 結んでもらいたい

時代の変化にお寺が合わせていく

――御誕生1250年を間近に控え、認知拡大が大きな課題ということですね。その年に向けては、神奈川県に関東別院の開設も進められていると伺っております。

時代が進んでいく中で、日本では核家族化のような家族構成の大きな変化が起きています。都会でも田舎でも同じですが、特に地方の方が深刻なようです。三世代が一つ屋根の下や近隣で暮らしていた時代は、主となる家には仏壇があり、折に触れてみんなでお参りしていました。その伝統も子から孫へ伝わっていたのです。しかし若い夫婦だけで暮らすようになると、家庭内に敬う場所を持たないケースも増えてきます。また、善通寺派の寺院は全国に250ヶ寺ほどありますが、それらの檀信徒の方の中には、地方から都会へ出て、そこで家庭を築いている方も多くなっています。この変化に我々がきちんと対応し、仏の教えを伝える、また四国遍路のPRのためにも、関東別院が必要だと感じています。別院は座間市に建設予定で、2021年の完成を目標にしています。

一方で、総本山善通寺としては、御誕生1250年に向けて、ツーリストの方々に善通寺を知ってもらう取り組みも進めなければなりません。現在宿坊「いろは会館」は50室を備えていますが、ツーリストの方々はどうしてもホテル志向があるため、そこまで知られていないのが実情です。知っていたとしても、お遍路での宿坊で知らない人同士が一部屋で寝るのも修行の一つですので、夫婦や単身で動き、宿泊でもその単位を求められると、どうしても敬遠されがちになります。しかし体験できる場所としての宿坊を、朝の勤行や、初めて会う人同士が同じ部屋で寝る慣習もお遍路ならではの経験だという価値観を広めることができれば、せっかくお遍路に行くのなら宿坊に泊まりたいという流れも生まれるのではと思います。

宿泊体験をきっかけに地域を盛り上げる

善通寺では毎年夏に近隣の小学3～6年生を集めて2泊3日の合宿を開催しています。もう36回を数えるのですが、朝5時半より毎日勤行を体験する中で、ほとんどの子供が般若心経を覚えて帰るのです。このように、宿泊を通して仏の教えを伝えることもできるので、現在は小学生から大人までの参拝研修にも力を入れています。昨年以降は京都の小学校、大阪の中学校が参拝研修で利用し、県内外の団体による利用も出てきているなど、実績は上がっています。現代は日常生活の中でお寺やその文化に触れる機会がどんどん減ってきています。研修参拝を通して、お寺と新たなご縁を結んでいただけると嬉しいですね。

――宿泊に力を入れることも、御誕生所としての価値や仏の教えを広めていくために欠かせないのですね。宿泊はお遍路さんにとっても嬉しいことですし、四国全体では年々国内外を含め訪問者数が増えていますが、そういった方々にも有益だと感じられます。一方で、地域振興に一役買っているとも思えます。

宿坊では、使用する食材をできるだけ善通寺市内、近隣のお店から購入するようにしています。また、毎年6月に開催している「大師市」や11月の「空海まつり」といったイベントは、地域に人を呼び込む手段としての位置づけでもあります。市外から多くの人がやってきて、市内をゆっくり回ってもらえればという気持ちでの企画ですね。

さらに、毎月8日には「乳薬師」のある赤門筋の一部を通行止めにして「赤門八日市」も開催しています。乳

2023年の弘法大師御誕生1250年特別記念として、仏の智慧を表す五色の糸を合わせて作った「五色腕輪守」も企画。男女で着けられるよう、大小を用意した

近年は空前の御朱印ブームと言われる。善通寺でも御朱印を求める人が多いため、「弘法大師御誕生所専用納経帳」を企画。サイズや色を複数用意した

西院の「遍照閣」。昭和60年に弘法大師1150年御遠忌記念事業の一環で研修道場として建てられた。1階にある修法道場には、四国八十八ヶ所霊場のお砂踏み道場を開設している

宿坊「いろは会館」

西院境内にある、鉄筋三階建ての宿坊。お遍路の方をはじめ、遠方から参拝された方の宿泊施設として1名から宿泊が可能。客室は純和風で、最大200名を収容できる。大浴場「大師の里湯温泉」も備えている。

観光を入口に回数を重ねて信仰へ。再訪の魅力創造を

宿坊に泊まる参拝客に毎朝講話をする立場になり、「なかなか大変」と菅法主

薬師とは、平成18年の創建1200年記念事業の一つとして、市内吉原にある七仏(しちぶつ)薬師如来を勧進したもので、その前で開催される市は、まさに地域振興のための行事です。

赤門筋というのは、善通寺の参道にある商店街です。かつては大変賑わっていたのですが、現在ではシャッターが下りたままの店も増えました。全国どこでも同じですが、車で行ける所に大型スーパーができて、たちまち人が来なくなってしまったのです。その賑わいを取り戻すことは容易ではありません。しかし、新たな賑わいは創り出せるかも知れない。その一環で、平成23年には赤門筋の隣接地に、善通寺市が観光拠点として「観光交流センター」をオープンさせ、南大門前には「にぎわい広場」も作りました。5年後の弘法大師空海御誕生1250年という節目に向かい、善通寺と善通寺市が一丸となって進んでいるので す。広場に大型バスが止まるようになると、バスは善通寺裏の大型駐車場へ回って待機するため、乗客は善通寺や周辺を参拝観光してバスへ歩いて戻る、という動線ができてきます。これが実現すると、赤門筋の復興プランをもっと考えられるようになってくるだろうと期待しています。

お遍路を入口に再訪がやがて信仰へ

――善通寺の存在が、地域の賑わいの元にもなってくる。お遍路と観光、二つの道が善通寺へ繋がっていると感じますが、その先に見えているものは、何でしょうか。

かつては全国に「講」があり、毎年参詣されていました。しかしその数が激減し、今は個人お遍路、ツーリストの時代。この二つは似て非なるものでしたが、例えば日帰り遍路ツアーのように、観光にお遍路が組み込まれてもいます。先ほど宿坊を強化する話をしましたが、まずは日帰りでも構わないのです。忙しい現代人には、それが合う人もいますから。その代わりというわけではありませんが、日帰り遍路を二度三度と繰り返してもらいたい。不思議なものでお遍路は、一度体験すると必ずまた行きたくなるそうです。これをお遍路さんの間で「お四国病」と言います(笑)。私も毎月壇信徒さんたちとお遍路をしていますが、行く日が近づいてくると、毎回ソワソワします。このように、再訪したくなる人を増やしたい。そのためにはお遍路の魅力、善通寺の魅力をしっかり広めていくことがやはり不可欠です。

善通寺への最初の入口が観光でも、物見遊山的にお遍路に参加いただいても構わない。二度三度と通っているうちに、それが信仰に変わっていくのだと思います。「お四国病」の人が増えれば、地域の賑わいも少しずつ戻ってくるでしょう。善通寺が地域振興に果たすべき役割はとても大きいと感じています。

真言宗善通寺派
総本山善通寺
〒765-8506
香川県善通寺市善通寺町3-3-1
TEL：0877-62-0111
http://www.zentsuji.com

宿坊「いろは会館」が隣接している善通寺表大玄関にて。多忙な菅法主だが、可能な限り参拝者と触れ合い、月に一度は檀信徒と共にお遍路もする

日々生まれている、寺社に関わる新たな取り組み。その中から、SNSにも対応した全国初の写真撮影サービス、持ち運べる絵解きスタンド、世界で話題になっている「テラハク」の最新動向を紹介します。

NEWS 1

通常は撮影できないアングルの写真を思い出に
セルフ撮影サービスを大本山建仁寺が国内初導入

■2016年より文化継承機構の協力のもと実証実験を繰り返してきた、拝観者による高画質カメラでのセルフ撮影サービスが、8月1日より京都府の大本山建仁寺で本格スタートした。本サービスはパナソニックとNTTコミュニケーションズが共同開発した「PaN」と呼ばれるカメラ・シェアリングサービスで、全国に現在20施設ほどの導入事例があるというが、寺社での導入は建仁寺が初。普段は立ち入りを禁止している場所に高画質カメラを3台設置し、撮影した写真は有料でスマートフォンに取り込める仕組み。写真は何枚でも撮影でき、その場でSNSにアップできるという手軽さもある。

　建仁寺では10年ほど前から、参拝の記念になればと、参拝者の写真撮影をすべて許可してきた。その後SNSなどの流行によって写真が情報発信に重要な位置を占めるようになり、その流れを受け、新たな技術の導入を決意。担当者は「SNS上に写真が拡散され、それを見たことがきっかけで建仁寺に興味を持ち、訪れる人が増えれば」と話す。また、「訪れた人が自身で寺を感じれば、寺社の素晴らしさをより知ってもらえるのでは」とも。

　寺社の新たな観光振興モデルともなりそうな本サービス。評判が広がればほかの寺社でも導入が進むと考えられるが、建仁寺では「ゆくゆくは導入施設同士で連携し、サービスを提供できるようになればおもしろい」と今後の展望に期待を寄せている。

上／方丈の広縁と庭園「大雄苑」を背景に記念撮影も！ 右／通常は建物の中からできない丸窓も屋外からのアングルが可能に

法堂の双龍図が映像合成技術により背景に写り込むオリジナリティ溢れる写真の撮影ポイントも用意

臨済宗建仁寺派
大本山建仁寺
〒605-0811
京都府京都市東山区
大和大路通四条下ル小松町584
TEL：075-561-6363
https://www.kenninji.jp

NEWS 2

仏教の絵解きや法話がどこでもできる
さっと丸めて持ち運べるロールアップスタンド発売

■仏教法宝物や書籍を販売する株式会社方丈堂出版より、「どこでも絵解き！ロールアップスタンド」が発売された。布教師でもある住職に「公民館や福祉施設で話をする機会が増えたが、掛け軸を掛ける場所がなくて困っている。どこでも設置できるスタンド型を作ってもらえないか」と相談されたことがきっかけで、自立式のロールアップスタンドを開発したそう。

　商品は広げると高さ約2・1m、幅約1・2mになり、畳むと幅は同じだが奥行き25㎝のバッグに収まるため、持ち運びも可能。今回は「熊野観心十界曼荼羅」「熊野観心地獄絵めぐり」を発売、各定価8万円(税抜)。自立式スタンド、専用バッグも付いている。収納された状態から片手でするっと引き出し、スタンドを付けるだけで設置が完了するので手軽。

　掛け軸の原本となる高解像度データがあれば、定価でオリジナルも制作可能。制作期間は2週間。原本データがなくても、制作期間3週間～1か月で別途撮影・デジタル化のうえで制作してもらえる。

　同社では、古来より手軽に絵画を使って仏の教えを説いてきた歴史的な背景を踏まえ、「身近に感じられる仏教美術品」として、今後も仏教の絵解きや法話に関する商品を開発していきたいと考えている。

今回発売された「熊野観心十界曼荼羅」(左)と「熊野観心地獄絵めぐり」(右)。納期は共に10日～2週間

株式会社方丈堂出版
〒601-1422
京都府京都市伏見区
日野不動講町38-25
TEL：0120-557-750
http://www.hojodo.com

NEWS 3

寺社振興と地方創生を目的に協業開始
楽天LIFULL STAYと「テラハク」の和空が業務提携

■宿坊ポータルサイトおよび宿坊予約サイト「テラハク」を運営する株式会社和空(本社・大阪府大阪市北区、代表取締役・田代 忍、以下「和空」)と楽天グループの民泊事業会社である楽天LIFULL STAY株式会社(本社・東京都千代田区、代表取締役・太田 宗克、以下「楽天LIFULL STAY」)は、宿坊施設の宿泊販売および運用代行に関する業務提携に合意。本提携により、楽天LIFULL STAYと和空は、寺社振興および地方創生を目的に、共同で日本全国の宿坊施設の宿泊販売促進に取り組むことになる。

　楽天LIFULL STAYは、同社が運営する民泊・宿泊予約サイト「Vacation STAY」および国内外の提携宿泊予約サイトを通じて、宿坊施設の宿泊販売を強化するとともに、和空のリクエストに応じてハウスマニュアルの作成や販売管理などの運用代行を行い、和空では、寺社の宿坊施設をより一般の方々にも利用しやすい宿泊先として改修・整備し、和空の宿坊予約サイト「テラハク」を通じて、順次宿泊販売できるようにしていくことになる。

7月18日に行われた記者発表では、楽天LIFULL STAY株式会社 代表取締役 太田 宗克氏(左)、ゲスト登壇者のブッキング・ドットコム・ジャパン西日本地区統括部長 高木 浩子氏(右)、株式会社和空 代表取締役 田代 忍が互いに手を取り合った

「テラハク」のスタートに合わせ、滋賀県大津市の三井寺(園城寺)の僧坊・妙厳院を和空がリノベーションした宿坊「和空 三井寺」も8月1日より予約開始。同宿坊の誕生は世界的な話題にもなった

【 ドローンとは 】

遠隔操作や自動操縦により、無人で飛行できる航空機の総称。近年は高画質かつコンパクトなモデルが登場、急速に普及している。しかし制御不能となった際の危険性や、立ち入り禁止の場所を撮影できてしまうことなどから、撮影自粛の呼びかけ、規制する動きもある。また、空中へ飛ばす以上航空法の対象となり、所轄の国土交通省では告示の改正などを随時実施。そうした中で飛行許可を取得し、撮影をビジネスにする企業も増えている。

SNSへの画像投稿を重視した観光が今、世界的な潮流だ。
その急先鋒を行くのがドローンだが、事故などの報告はあれど、
寺社にとっては文化財保護、災害時の調査、観光振興と、
利用への可能性はむしろ広いと言ってよいのではないだろうか。
重要なのは、ドローン利用者を待つのではなく、活用する側になること。
5つの事例を通して、ドローンとの向き合い方を考えたい。

特集

自ら活用すれば、可能性は広がる
寺社とドローンのこれから

昭和３（1928）年に刊行された、鳥瞰図絵師・吉田初三郎による「鞍馬電鉄沿線名所図絵」。大正から昭和初期にかけ、鉄道旅行の発達に伴う観光ブームと相まって初三郎の鳥瞰図は観光案内書や図録で大人気となる／出典：京都府立京都学・歴彩館 京の記憶アーカイブ

文化財保護に災害時調査、観光振興まで活用幅は広い

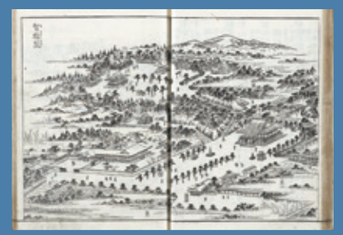
イベント会場で観客の上に落下、寺院で行事の列に落下、城郭に衝突など、ドローンの普及と共に、事故の報告も増えている。そのため、ドローン＝危険なもの、と捉える人も多いだろう。しかしこれらは操縦者のモラル、力量が問題の所在であることが多く、その対策は国土交通省などに委ね、撮影者を受け入れる側としては、個々にルールを定めることが必要不可欠だ。

一方で、寺社ではドローンという「ツール」を活用する動きも広がっている。その独特なビジュアルインパクトから、画像や動画でのPRを主な用途と考えがちだが、例えば仁和寺や岡寺のように、文化財保護や災害時の調査に活用する例も出てきている。

つまり寺社とドローンとの関係性を考えるとき、撮影者の受け入れに悩むよりもむしろ、積極的にドローンを活用することに、多くの可能性を感じる。今後も新たな活用法が出てくると思われるドローン、寺社こそ、その先例となるのではないか。

ドローン映像＝鳥瞰図は、寺社参詣で見慣れたものだった

ドローンによる空撮画像・動画は、「これまでにない視点」として観光地での利用が広がり、こと寺社観光でも集客に有益だと言われる。ＳＮＳではそれらの映像が共感を呼び、集客に繋がっている例も少なくない。しかし空から俯瞰した映像は、現代版の鳥瞰図と捉えることもできよう。鳥瞰図なら、寺社こそ得意としてきたもの。多くの古刹では、境内入り口近くに鳥瞰図が掲げられ、それを見て、長年多くの人が参拝してきた。また、名うての絵師に鳥瞰図を描かせ、奉納されてきた歴史もある。つまり昨今話題のドローンは、画像・動画に関して、むしろ寺社の伝統に近い存在と言える。表現手法が現代版となったに過ぎない。寺社参詣が観光の主な目的だった時代から、寺社の鳥瞰図は多くの人の想像力をかき立て、訪れる楽しみを提供してきた。そう気付くと、積極的とは行かないまでも、活用法を机上にのせる意義はある。



天明７（1787）年に刊行された「拾遺都名所図会」に描かれた智積院の鳥瞰図。名所として寺社を紹介する際は、江戸時代でも鳥瞰図が一般的だった

事例 1

文化財保護に活用

人の手の届かない所まで高画質撮影し、寺域を完全データ化し、未来へ繋ぐ

真言宗御室派 総本山仁和寺

【京都府】

五重塔をドローンで測量。詳細にデータを取り、それを編集して高精細 3D データを作成していく

ドローンで撮影すると、屋根瓦の破損状況も詳細に記録でき、修復計画に役立つ。庭園の苔は、最も美しく見える初夏に撮影。庭園の起伏までも現在の総本山仁和寺のすべてとして精細なデータに

図面としてではなく雰囲気までも後世に伝える

平成29年の台風21号は、関西各地で甚大な被害をもたらした。総本山仁和寺も例外ではなく、御殿(旧御室御所)の中心部に立つ宸殿(しんでん)では、檜皮が大きくめくれてしまった。広大な寺域に重要文化財指定を受けている建物を多く所有する同寺では、その保護、改修のための調査にも多くの時間を必要とする。また、屋根に上るなど、危険を伴う作業も多い。そこで、ドローンによる調査を実施するに至った。

堂宇はもちろん、季節の風景、庭園までもすべて測量し、データ化していったのだが、その意義を「データ化することで、あらゆる場所のすべてのものが復元できるようになります。寺社とは、存在そのものが文化財です。しかしながらこれまでは平面図で全体を把握していたため、設計図的に状況を保存することはできても、雰囲気など、仁和寺が持つ世界観までは伝えることができていませんでした。デジタルデータ化によって、空間の構成そのものも後世に伝えていくことができる。これは大きな成果だと思います」とプロジェクトを担当した財務部課長の金崎義真(かなざきぎしん)氏。

例えば庭園の松の木の並びだけでなく、全体のバランスをデータで残す。すると仮にその中の一本が枯れ、植え替えが必要となった際には、「ここに松の木を植える」ではなく「ここにこのような枝の広がり方をしている松の木を植える」というように、庭園の世界観を損なわず、保存・改修が可能になる。

また、すべてをデジタルデータ化するプロジェクトは、思わぬ成果ももたらしている。今年1月～3月まで東京国立博物館にて「仁和寺と御室派のみほとけ－天平と真言密教の名宝－」が開催されたが、その見所として、観音堂が仏像33体だけでなく壁画までも詳細に再現され、話題となった。収集したデータは、活用に大いなる可能性をまだ秘めていそうだ。

今後のビジョン

寺社は存在そのものが美術品。それを伝えていく

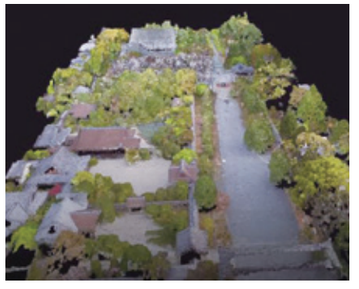
「東京国立博物館で開催された先の特別展のように、撮影したデータを持ち出して建物内部を再現しても、それは残念ながら、本物ではありません。例えば観光で優れた美術品に触れる際、ヨーロッパを訪れた際にはミュージアムへ行きます。それが日本なら、ミュージアムだけでなく寺社へも行きますね。つまり寺社は、存在そのものがミュージアムだと思うのです。だからこそ、詳細なデータを残していくことで、寺社という優れた美術品そのものを後世に伝えていくことができると考えています。また、完成したデータは、印刷物にするなど観光集客のＰＲにも役立てることができます。その点でも、測量・編集を経て完成したデジタルデータをもとに、活用の可能性を今後も積極的に模索していきたいと考えています」(金崎氏)

真言宗御室派
総本山仁和寺
〒616-8092
京都府京都市右京区御室大内33
TEL：075-461-1155
http://www.ninnaji.jp

PICK UP

外部との協働でプロジェクトは始まった

2011年に、現・一般社団法人 先端イメージング工学研究所代表でもある京都大学名誉教授 井手亜里氏(写真右)が開発した文化財のための高精細画像記録システムを利用し、「宸殿全襖撮影記録、仁和寺観音堂超高精細デジタル化プロジェクト」が実施されていた。そこで台風21号被害の復興に際し、金崎課長(写真左)が調査を井手氏に依頼、「総本山仁和寺3D空間保存プロジェクト」が2017年に始動した。



測量データを編集し、作成された 3D 画像。わずか 1㎝の距離まで近づける

事例 2

災害時に活用

災害の記録を克明に記録することで後世の防災に役立てていく

真言宗豊山派 東光山真珠院岡寺（龍蓋寺）

【奈良県】

寺域全体をドローンで俯瞰。全９か所で土砂崩れが起きており、まだ復興半ばの状態

PICK UP

本来は観光PRで活用したい

ドローンは、寺院の魅力を発信するために副住職の川俣氏が数年前に購入したもの。購入後は参拝者のいない早朝などに撮影、ホームページやSNSで公開してきた。特に多くの人が訪れる桜と紅葉の時期に寺院の全容をドローンで撮影すれば、かなり注目されるはずだ。購入時には「ほかにも何か役立つことがあるだろう」と考えていた程度だったが、まさに大活躍だった。

三重宝塔を中心に、真紅の紅葉が境内を染める。映像はSNSで評判となった。ちなみに一般参拝者のドローン撮影は禁止している

ドローンで撮影した写真はホームページやSNSで発信したほか、境内にも掲出

人の力が届かない所まで災害時の初動で大活躍

〝日本最初やくよけ霊場〟として、また花の寺として知られる岡寺（龍蓋寺）は、奈良県明日香村を見渡せる山沿いに立つ。その山肌が、平成29年の台風21号により、大きく崩れてしまった。被害の拡大を食い止めるためにも被災状況の迅速な把握が必要だったが、そこで活躍したのがドローンだった。

「水を含んだ山肌がいつまた崩れてくるか分からない状況で、人が近づけないところまで状況を把握できたことは、とても役立ちました」と川俣海雄（かわまたかいゆう）副住職。山肌を人の目の高さからビデオやカメラで撮影していたのでは、被災状況をすべて見ることができない。その点ドローンだったからこそ、人に危険が及ばず、状況を正確に把握することができたという。災害の数日後には、被災状況の全体像をほぼ確認。そしてこのことが、二つの点で役立った。

「復旧は業者に依頼したのですが、その際、ドローンの映像が業者への具体的な指示に大活躍し、迅速な復旧計画立案につながりました。また災害直後から状況を心配した多くの方にご連絡いただいており、みなさんにより早く正確に、現状を知ってもらうことができたと思います」

ドローンは数年前に自身で購入していた川俣副住職。今回の一件で、防災観点での活用に期待できることがわかった。

「幸い今回は建物の大きな被害はありませんでしたが、土砂が一部流れ込み、破損したところもありました。山肌が崩れた部分を細部まで記録しておくことで、地盤がゆるく崩れやすい場所などをデータとして残すこともできました。これは後世の防災にとても役立つ記録です」

記録、そして状況の発信。より正確な情報収集のために、人の力が及ばないところへドローンを活用する。災害時には初動が重要と言われるが、ドローンの導入は、そこで大きな効果を発揮したと言える。

土砂崩れは本堂裏が特にひどく、崩れている範囲を把握するために、ドローンによる撮影が役立った

真言宗豊山派
東光山真珠院岡寺（龍蓋寺）

〒634-0111
奈良県高市郡明日香村岡806
TEL：0744-54-2007
http://www.okadera3307.com

今後のビジョン

防災の観点で、伽藍の定期点検をしていきたい

「ドローンを購入していたことで、詳細な記録を高画質で残せることが分かりました。お寺全体の復興はまだ道半ばですが、これを機に、建物など境内全域の定期点検もしていけたらと考えています。空撮できたことによって、これまでは無理だった情報まで残せるようになったことは大きな成果だと思います。お寺はこれからもずっと守っていかなければなりませんので、どのような災害の時に何をどう備えればいいのか、それらの計画立案にも映像が活躍します。大切なのは、お寺のすべてを後世に残していくことですので、定期的に活用していきたいですね。もちろん活用には、魅力を発信するという本来の目的も含んでいます。より多くの人に関心を持ってもらい、参詣いただけるよう、たくさんの情報を発信していきたいと思います」（川俣氏）

COLUMN

寺社PRのための映像を入手するなら

空撮を依頼するのもアリ

■ドローン撮影事業社A社

基本プラン	写真パック	動画パック	写真&動画パック
料金	¥30,000～	¥40,000～	¥50,000～
詳細	PR素材や記念撮影、点検などの目的で静止画の空撮を行う	PR素材や記念撮影、点検などの目的で映像の空撮を行う	PR素材や記念撮影、点検などの目的で映像と写真の空撮を行う
上記プランのオプション	写真レタッチ	動画編集（PV製作）	写真レタッチ＆動画編集（PV製作）
料金	¥10,000～	¥30,000～	¥50,000～
詳細	写真の明るさ・暗さを補正したり映り込んだ電線などを消したりする「レタッチ」がセット	撮影した空撮動画のカット・結合や音楽と合わせたPV製作などがセット	レタッチと動画編集がセット

ドローン撮影料金の一例。あれやこれやとお願いしていくと、そこそこの金額になる

さまざまな機種が発売されているドローンは、機種自体の価格もかなりリーズナブルになってきている。とはいえ、重要なのは操縦技術。忙しい業務の合間に習得するとなると、うまく撮影できるようになるのはかなり先になってくる。そこで検討したいのが業者に依頼する方法だ。ドローン人気の高まりを受けて、空撮を請け負う業者は群雄割拠の様相を呈している。そんな中、うまく依頼しないとかなりのコストになる可能性もある点は注意しておきたい。依頼する際のポイントとしては「静止画、動画のどちらが必要か」「何枚(動画なら何本)ほしいのか」を明確にしておくこと。その上で、各社に見積を依頼するのだが、動画撮影を依頼する場合は、画像の補正や動画の編集作業が料金に含まれているかどうかも確認しておきたい。また、撮影者が国土交通省の認可(基本的には全国包括許可)を得ているかも、念ため確認を。その他の課題としては、ドローン発着地が寺社の敷地外の場合は、土地の所有者からの許諾が必要になり、その調整費用もかかってくる。

境内からは広大な浜名湖の絶景が見渡せる。正太寺ならではのおだやかな景色と四季の移ろいも伝えたいと穴水氏

今後のビジョン

ドローンだけでなく最新技術を学び続けたい

「世の中の事情を知らなければ、悩みに答えることもできません。お寺とは本来、新しいモノが集まる場所でした。新しいモノをいち早く取り入れて、地域の人たちに知識を還元する。ドローンの活用法は今後も試行錯誤していくことになります。しかし、例えば一部で批判も起きた『卒塔婆プリンター』など、新たな技術は知らないと取捨選択すらできません。そのためにも学び続けていこうと思います」（穴水氏）

正太寺の住職を務める穴水正哲氏。同寺のHPの制作やブログの執筆なども一人で行っている

曹洞宗
宇津山正太寺
〒431-0411
静岡県湖西市入出800
TEL：053-578-0049
http://www.shotaiji.or.jp

事例 3

自坊のPRに活用

ツツジの見頃をチェックしてほしい副業目的から寺のPR活用へ

曹洞宗 宇津山正太寺（うづやましょうたいじ）

【静岡県】

浜名湖に突き出すように位置する宇津山の正太寺。春先に見ごろを迎えるミヤマツツジの様子を上空からドローンで撮影し、公開している

副収入を得るための購入から自坊の四季発信へ方向転換

静岡県の浜名湖に面した曹洞宗宇津山正太寺の住職、穴水正哲（あなみずしょうてつ）さんがドローンを購入したのは今からちょうど2年前のこと。

「最初はお寺の運営に役立てようとは思っていませんでした。私が購入した頃は、まだ周囲でドローンを持っている人がほとんどおらず、ドローンで空撮をしたら1点3万円くらいで買ってくれる人がいるのでは、と考えたんです。ドローン自体は20万円くらいだったので、すぐに元も取れるだろうと、先行投資をしました」

つまりお寺としての地域とのつながりの強さを生かした〝副業〟が当初の目的だった。観光目的で寺を訪れる人は少なく、地域の檀家との関係で成り立つ正太寺にとって、数万円の副収入は決して少なくない。

「ただ、撮影の話は来るものの、消防団の出初め式や小学校の運動会といった行事撮影ばかり。地域とのつながりが強い分、私も〝中の人〟ですから、どうしてもボランティア撮影になってしまいますね。ならばお寺のPRに役立てようと境内を空撮し、その動画をYouTubeにアップしたんです」

正太寺一帯では、3、4月にミヤマツツジやサクラが見頃を迎える。

「私ひとりでやっているお寺なので、問い合わせの電話に出られないことも少なくありません。そのため、花見に来ようと思ってくださっている方々に、映像を見て状況を確認してもらいたかったんです。本当なら、四季折々の正太寺やお寺から見た浜名湖の景色もお届けしたいのですが、そこまで手が回っていないのが現実です」

今後は雪の舞う様子も撮影したいという穴水さん。新たな正太寺の姿を広く発信していこうと考えている。

事例 4

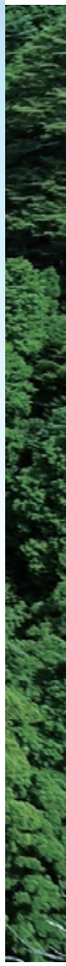
多彩に活用

可能性を閉ざしてしまってはいけない。だから寺院から、多様な活用法を発信する

天台宗別格本山 書寫山圓教寺（しょしゃざん えんぎょうじ）

【兵庫県】

コの字型に並ぶ常行堂（手前）、食堂（奥左）、大講堂（奥右）の位置関係も、空撮映像なら参拝者に伝わりやすい



「おもしろい！」との思いから撮影やイベントを実施

数年前、圓教寺の瓦を担当している方からドローン撮影をしているカメラマンを紹介されたことがきっかけで、ドローンに興味を持った大樹玄承（おおきげんじょう）執事長。撮影した映像を見せてもらい、独特なアングルがおもしろい！と感じたという。

「圓教寺は山の上に伽藍があり、建物がとても複雑に並んでいるため、全体を理解してもらうことが難しい。しかしドローンでの映像なら、より多くの人に知ってもらえると考えました。ドローンそのものに可能性をかなり感じたことも大きいですね」

カメラマンに何点か撮影してもらい、SNSなどで公開。その後も境内の桜並木を通り抜ける映像や、伽藍を歩いて進んでいるような映像を撮影してもらうことに。また、「カメラマンには、操縦方法を覚えれば誰でもできると言われましたが、誰でもがドローンを持ち込んで撮影し始めると危険な部分があるな、とも感じました。ちょうど事故のニュースも出ていましたし」。しかし、ドローン活用の可能性が、事故があったがために閉ざされていくのはもったいないと考え、ドローンを間近で見てもらえるイベントも実施。

「有益な活用をアピールできないか、と考えたんです。目の前でドローンが飛ぶ姿を見て、設置したモニターでは撮影した映像をリアルタイムで見てもらいました。かなり興味を持ってもらえたようでした」

寺社の空撮映像が人気を集めている昨今。だからこそ寺院から発信し、まずはさまざまな活用方法があることを知ってもらいたい。

「イベントを実施したからといって、その場で誰かがドローンを購入するわけではありません。それでも普及の一助になれば」

自分が考える以上にドローンの活用方法はまだあるはずという大樹執事長。もちろん自身でも、圓教寺におけるドローン活用の方法を積極的に考え、試してみたいという。

人の目が届かない屋根の上を、ドローンで俯瞰した映像。これを定期的に実施すれば、文化財点検も容易に

摩尼殿も、ドローンで撮影すると違った迫力に。空撮映像によって、圓教寺への理解が広がると大樹執事長は感じる

天台宗別格本山
書寫山圓教寺
〒671-2201
兵庫県姫路市書写2968
TEL：079-266-3327
http://www.shosha.or.jp

今後のビジョン

警備から新たなサービスまで、活用はもっと広がるはず

「ドローンはプログラムすれば所定のコースを飛ばすことができるとも教えてもらいました。そこで将来的には、圓教寺の夜間巡回をドローンに任せることができないか、とも考えています。ここは山の上なので、境内に人のいない夜間には、動物が頻繁に来ます。またこの広い境内は文化財も多くある場所なので盗難が起きないとも限りません。しかしそれらの脅威から文化財を守るには時間も費用もかかるため、そこをドローンが担ってくれればいいですね。例えば温度が感知できたり赤外線のように夜間でも視認性のあるカメラを搭載して夜間巡回するなど。そうすると警備の人間を危険にさらすこともなくなります。

あと、圓教寺では結婚式も多いので、ドローンで記念撮影してあげるなどのサービスも考えられそうです」（大樹氏）

PICK UP

ドローンのイベントも実施

2015年の5月に、重要文化財特別公開に合わせ、体験イベントを実施した執事長の大樹氏（写真）。カメラマンにお願いし、ドローン機種を数台展示したほか、ギャラリーの目の前で飛ばし、モニターで映像を見てもらった。同時に文化財の点検も実施。「ドローンを見るのが初めての人も多く、機種や扱い方の説明を交えてデモンストレーションを行いました。かなり興味を持ってもらえました」

ドローンでギャラリーを生中継。境内に立つ自分たちがくっきりと見える映像に一同も感嘆

神社で撮影会に活用

事例 5

西武鉄道とドローン事業者共催の撮影ツアーが初開催

鉄道×ドローン撮影ツアー 協力／三峯神社

【埼玉県】

ツアーで伝えたかったのは神社と風景の素晴らしさ

西武鉄道では2015年より、埼玉県秩父市にある三峯神社の協力で絶景の雲海&星空鑑賞を目指す「夜行列車で行く 秩父絶景ツアー」を開催してきた。これまで累計14日催行、4497名が参加する人気ツアーとなったのだが、新たなプロジェクトとしてこの春、西武鉄道と西武トラベル、ドローン空撮やパイロット教育を手がけるドローンエモーション社の3社で、特別編としてのドローン撮影ツアーを実施。これまでのツアーで三峯神社の荘厳さやそこから眺める大自然の素晴らしさは多くの人に感動を与えることが分かっていた。そこへさらに、魅力的な映像を創り出すことができるドローン空撮を企画に加えれば、インパクトのある映像が「自分もその場所に行ってみたい」と多くの人に思ってもらうことができる、三峯神社と秩父の素晴らしさをより届けられる、との思いが出発点となった。また、都市部では航空法や民法などのハードルにより、ドローンを飛ばすことが難しくなってきている中、愛好家の「絶景を映像に収めたい、スキルアップしたい」というニーズの受け皿、そして観光PRとしての可能性に期待を込めての実施だった。

数々の参加条件を付加してようやく実施が可能に

しかし、寺社でドローンを飛ばすには、地権者の承諾を得るだけでは足りない。主催側が最も細心の注意を払ったのは「神社の建造物や参拝者への安全確保」だった。敷地内を立ち入り禁止にはできないため、撮影時間は参拝者のいない早朝に限定、その上で参加条件のハードルを非常に高くした。一例を書くと、ドローン操縦士関連民間ライセンスを保有し、飛行許可を国土交通省から各自で取得できること、損害保険(対人1億円、対物5000万円以上)に加入し、持参する機体は比較的小型の撮影用(対角線サイズ40㎝以下のもの)に限定するなど。加えて、撮影時はパイロットと補助者を必ず2名1組で行動させ、補助者の機体目視によるパイロットへの情報提供や注意喚起、一般参拝者通行時の安全管理などを徹底した。

実施にあたり準備したのはそれだけではない。「魅力的な映像を撮ってもらうためには、参加者のレベルに合わせた指導やアドバイスが欠かせない」との視点から、事前に参加者の経験情報や過去の撮影映像を取り寄せ、その上で当日の撮影は上級者と初心者を同じチームにし、参加者同士でフォローできる体制を整えた。これなら初心者は上級者から少し教わることができ、上級者は初心者に教えることで新たな気付きをもらうという、学びの環境も作ることができるからだ。

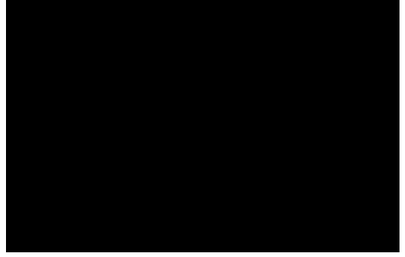
考え得る限りの万全の体制で実施されたツアーは、細かな参加条件に加え募集期間も短かったのだが、9名が参加。三峯神社の壮大さや雲海への感動、そしてドローン操縦の楽しみや新たな学びもあり、主催側の狙い通り、高い満足度を得ていた。

クリアすべき点は多い。しかしその先に未来あり

今回のツアーでの手応えを受け、主催側は寺社に限らず今後も各地で実施を検討したいと考えている。しかし寺社での実施には「文化財としての建造物や参拝者への安全対策が不可欠。初心者が勝手に飛ばすようになるとそれらに危険が及びます。また、神社なら本殿の上は飛ばさないといった宗教的な配慮も必要です。さらに、ドローン講師の指導を必須として、安全に飛ばせるような仕組みも作っていかなくてはなりません」(西武鉄道担当者)。

だが、このようにハードルはまだまだ高いものの、これらをクリアした上で寺社の空撮動画が生まれてくると、寺社の美しさや荘厳さ、意味の深さなどをより多くの人に伝えることができるのではないか、との感触も感じているようだ。

ドローンを飛ばすことへの規制が厳しくなってきている一方で、空撮ツアーに興味を持つ旅行関係企業や自治体も増えてきている。これを新たな観光振興に繋げるには、先述のハードルに加え、例えば撮影した映像を寺社が所有してPRに活用できるようにするなど、撮影者と寺社の双方にメリットが生まれる仕組みの構築も重要になってくるのではないか。



空高く飛ぶからこそダイナミックな映像が撮影でき、また危険性もはらんでいるドローン(写真はイメージ)

当日は撮影前に、空撮講座(座学)を実施。撮影時には3、4人に対し撮影講師を1人付け、複数の目で注意力を高め、ドローン飛行を行った

三峯神社の思い

最初に企画を聞いた時は、あまり気が進まなかったというのが正直なところです。「ドローン」と聞くと落下してきてケガをしたとか、器物を破損したなど悪いニュースが先に思い浮かぶからです。特に〝神社〟という性格上、神様を見下ろす、歴史的建物に傷をつける可能性があるなど、そのリスクは大いにあります。

しかし、興味がなかったといえば嘘になります。実際、テレビやネットなどでその映像美に魅せられることも多く、雄大な自然の中にある三峯神社をいつもとは違う視点で見るとどう映るのかという気持ちは常にありました。加えて、何年もかけて築き上げた西武鉄道・西武トラベルとの信頼関係、紹介いただいたドローンエモーション社の技術力。これらを総合的に判断し、ツアーを受け入れることにしました。

何度も打ち合わせを行ううちにドローンへの理解が深まり、今までの誤った知識から偏見は払拭されました。実際にドローンでの撮影を行うにあたって、地権者への連絡や航空法、撮影時間など事細かに決めて当日を迎えたのですが、撮影時の参加者の真剣な眼差しと笑顔は今でも忘れられません。そして出来上がった映像は予想をはるかに上回る美しいものでした。

新しいガジェットはその便利さゆえに常識を覆し、理解され受け入れられるまで時間がかかることがあります。ドローンもメリットとデメリットをしっかり理解し、正しい運用をすれば強い味方となってくれると思います。それは観光PRといった面だけではなく、例えば建物保全や鎮守の森の保全など、今まで多くの労力を必要としたものが短時間できるようになる可能性も秘めています。

伝統や文化を守るには、昔からの常識だけにとらわれず、新しい技術を理解し取り入れながら最善の方法をとることも必要だと思います。このような機会をつくっていただいた西武鉄道、西武トラベル、ドローンエモーション社の皆様には感謝しています。

OTAKARA

千姫姿絵

【せんひめすがたえ】

生前を写実的に描いた、唯一の姿絵

弘経寺蔵「天樹院様寿影(千姫姿絵)」。作者や制作年は不明だが、徳川美術館に収められた屏風図が風俗画的だったのに対し、その表情が写実的に描かれていることから、ご存命のうちに描かれたものではないかと推測される

千姫が深く帰依した弘経寺 所縁の品々に込められた思い

慶長2(1597)年、徳川秀忠とその継室・江の長女として生まれた千姫は、7歳で豊臣秀吉の三男・秀頼と結婚し、大阪城に輿入れした。しかし、12年後の大坂夏の陣で豊臣家が滅亡。その後本多忠刻と再婚し、一男一女をもうけるが、息子・幸千代は早世、さらに夫・忠刻までも亡くしてしまう。

そんな〝不遇の姫〟の貴重な姿絵を収めているのが、茨城県常総市にある弘経寺だ。現存する千姫の姿絵は二点のみ。そのうちの一点が弘経寺の「天樹院様寿影(千姫姿絵)」となる。

本堂裏堂の奥には、徳川幕府初代将軍・家康公像をはじめ、14代家茂公までの歴代将軍とそのご一族の位牌も納められている

千姫と弘経寺との関係は、同寺第十世照誉了学上人(しょうよりょうがく)(のちの増上寺第十七世)によって築かれたと伝えられている。了学上人は度重なる不幸に深く傷ついた千姫に仏教の教えを説き、千姫もまた、了学上人に深く帰依した。70歳の天寿をまっとうし亡くなる際には、江戸城北の丸・竹橋にあった御殿の一部を弘経寺の敷地内に移築し、自らの墓を境内に作ってほしいとの遺言まで残したという。

御殿は焼け落ちてしまったものの、移築の際に持ち込まれた祖父・家康の像をはじめ、両親や弟・家光の位牌、ご愛用されていた「五条袈裟」、そして千姫の墓所は現在も弘経寺で大切に保存。多くの文化財を有する境内は近年、時代劇をはじめ映画の撮影場所としても使用されるようになるなど、常総市のフィルムコミッション事業にも一役買っている。

境内の一角には、千姫改め、天樹院の墓が築かれており、その遺骨も発見されている。千姫の希望で先に亡くなった侍女たちの墓もまた、同地に築かれた

浄土宗
大本山増上寺別院
寿亀山天樹院(じゅきさんてんじゅいん) 弘経寺(ぐぎょうじ)
〒303-0041
茨城県常総市豊岡甲1
TEL：0297-24-0895
http://www.gugyoji.jp

OTAKARA

古瀬戸黄釉狛犬

【こせとおうゆうこまいぬ】

日本最古の、阿吽一対となった陶器狛犬

右が阿形、左が吽形の「古瀬戸黄釉狛犬」。ともに頭に角はなく、たてがみが流れていることから両狛犬型の一対だ

香取神宮を守る狛犬は 瀬戸古窯で焼かれた陶器製

全国に400社ある香取神社の総本社として知られる香取神宮は、2600年以上の歴史を有し、下総國一ノ宮として古来多くの信仰を集めてきた。特に香取神宮の御祭神・経津主大神(フツヌシノオオカミ)は鹿島神宮の大神と共に武道の神様として崇められ、剣道や空手の道場の祭壇に祀られていることでも馴染み深い。

その香取神宮に収められているのが、阿吽一対の「古瀬戸黄釉狛犬」。阿像の高さは17・6㎝、吽像は17・9㎝と小柄ながら、黄釉独特の深みのある色合いがその存在感を引き立てている。作者や具体的な制作年は不明ながら、その作風から室町時代(15世紀)における瀬戸古窯の作品と見られており、陶器の狛犬としてはもっとも古い一品だ。

国宝「海獣葡萄鏡」も所蔵。正倉院御物及び四国大山祇神社の神鏡と合わせて「日本三銘鏡」とも称される

胴が細く胸を張って直立する狛犬を「香取型」とも称するが、もともとは同神宮の摂社・又見神社に収められていたもの。移動時期は不明だが、その後昭和28(1953)年に重要文化財に指定され、同51(1976)年には、250円切手のモデルにもなった。

香取神宮には、楼門の内側にも木彫りの狛犬が収められている。こちらの狛犬もまた作者は不明だが、「古瀬戸黄釉狛犬」とはまた違う、重量感のある風貌が印象的だ。

狛犬は元来、神社に悪いものを寄せ付けないための、空想上の守護獣像として日本に伝えられた。宝物館に納められている二対の狛犬は、香取神宮のみならず地域の人々をも見守る存在として、敬われている。

8cmほどの高さの古瀬戸の狛犬や海獣葡萄鏡のミニチュアもお土産として人気

香取神宮(かとりじんぐう)
〒287-0017
千葉県香取市香取1697-1
TEL：0478-57-3211
https://katori-jingu.or.jp

高野山では、壇上伽藍に立つ根本大塔なども精力的に見てまわった調査担当のガルーゾー氏

観光庁「テーマ別観光による地方誘客事業」「社寺観光 巡礼の旅」事業で全日本社寺観光連盟が調査を実施

社寺観光における「宿坊」の可能性を探る

「宿坊」に特化した受託事業で外国人による調査を実施

特定の観光資源を活用して地方誘客を図ることを目的に観光庁が公募した「テーマ別観光による地方誘客事業」で、受託17事業の一つに全日本社寺観光連盟の「社寺観光 巡礼の旅」が昨年に続き選定された。事業では、選定されたネットワーク組織などが実施する観光客のニーズや満足度を調査するためのアンケートやモニターツアー、共通マニュアルの作成、共同Webサイト作成などに必要な経費について観光庁から支援が受けられるのだが、全日本社寺観光連盟ではインバウンド時代に「宿坊」が社寺観光のキーワードとして浮上していることを受け、今年度は「宿坊」に特化した事業を計画。その一環として7月2日から6日間の日程で実地調査を行った。

調査を担当したのは、3か月の予定で全日本社寺観光連盟にインターンシップに来ているアメリカ国籍のニコラス・ガルーゾー氏。彼は現在社寺やさまざまな日本の伝統的な文化を調査し、レポートしており、今回は関西のフィールドを訪問。大阪と高野山で宿坊に宿泊し、そこで実施されているコンテンツを体験・調査した。

左で紹介しているのが、6日間の調査を通してガルーゾー氏がまとめたレポートだ。外国人が異文化を体験した素朴な驚きや感動が細かくレポートされていて、なかには、今後社寺観光を展開していくうえで注視したいポイントも記されている。

昨今社寺を訪れる外国人の中には、設備不足などを残念に思う声もあるが、それらを不便と感じるかどうかは旅行者次第とガルーゾー氏。むしろ、観光客を受け入れる際に、何をより意識してほしいのか、またそのためにはどのようにアピールしていくべきか考えていく必要性を、レポートを通して感じられた。

ナイトツアーで訪れた高野山奥之院では、闇に浮かぶ灯篭の明かりにも幽玄の美を感じた

「金剛三昧院」の宿坊と庭園。自然と建物との見事な調和に見とれる

一般社団法人
全日本社寺観光連盟
〒107-0052 東京都港区赤坂2-8-16 赤坂光和ビル2階
TEL: 03-6416-0166　e-mail: info@jtast.jp
〈ホームページ〉http://jtast.jp

Report

～ 外国人目線の「宿坊」調査レポート ～

BEAUTIFUL SHUKUBO

調査員 Nicholas Galluzzo
27歳　米国籍
アメリカ・セントラルフロリダ大学ビジネス学部にて観光ビジネスを専攻する学生

関西「宿坊」調査で見えたこととは？

1. 精進料理は、肉、魚、時には根菜を使用せずとも、意匠を凝らしておいしくいただける
2. できることなら精進料理の一つ一つの内容（使用食材など）を、教えてほしかった
3. 宿坊では、玄関からのアプローチや障子、建物と周りの景色との調和に歴史を感じた
4. 宿坊自体の佇まいやそこから眺める景色に見とれ、テレビを必要としなかった
5. 高野山でのナイトツアーで、ガイドが流暢な英語で質問に答えていたのはとても有益
6. Wi-Fiが繋がりにくいこと、英語表記が少ないことなどを不便と感じるかは旅行者次第
7. 英語でなくても、宿坊では丁寧なサービスの中で身体と心を清め、静寂の時を過ごせる

ニコラス・ガルーゾー氏

大阪「和空下寺町」での宿泊は素晴らしいものでした。施設はとてもきれいでモダンなスタイルですが、座禅などの体験もできます。夕食は18時。食事（精進料理）が始まると、たちまち過去へといざなわれるのが印象的でした。精進料理は動物の殺傷や、根菜食までも厳しく禁じています。ですが、肉、魚、時には根菜を使用せずとも、意匠を凝らしたおいしい食事を味わえます。外国人にとっては驚きとともにショッキングなことかもしれませんが、大変おいしく満足のいくものです。また、朝食はお粥でしたが、この料理は仏教において10の効能があると言われています。これこそ、日本人の健康と長生きの秘訣かもしれません！ 食事で唯一お願いがあるとすれば、料理一つひとつの内容を、どんな食材を使っているかなど、教えていただけると、もっと楽しめたかと思います。（見たこともない野菜がたくさんあるので！）

さて、高野山に舞台を移し、趣の全く違う二つの宿坊に泊まりました。まずは外国人に人気の「恵光院」です。玄関からのアプローチ、中庭の景色、シンプルで美しい障子、細部において美しく素晴らしい建物と、周りの景色との調和に長い歴史を感じました。通された部屋には小ぶりなテレビがありましたが、宿坊自体の佇まいや部屋から眺める情緒あふれる景色に見とれ、テレビをつけることは一度もありませんでした。

夜には人気のアクティビティ「奥之院ナイトツアー」に参加。道中の歴史の趣溢れる幻想的な風景は、雨に濡れて一層美しく見え、感動的なものでした。ツアーは英語班と日本語班に分かれており、ガイドさんはツアーの間、道々を照らす灯篭や墓地、また弘法大師の一生について語り、説明してくれます。とても流暢な英語で大勢の外国人旅行者の質問に答えてくれていたことは、高野山や日本の文化を理解するうえでとても有益だったと思います。ナイトツアーでは、参加する季節にもよりますが、蛍、大ガエル、こうもり、そして空飛ぶリス（ムササビ）！ も見ることができます。このツアーは私にとって印象深く最高の思い出の場所となりました。

次に宿泊したのが「金剛三昧院」です。高野山内で最も古く、世界遺産にも登録されているこの宿坊は、情緒にあふれ歴史のある建物が自然の風景美の中に溶け込んでいました。十分すぎる広さの部屋でゆっくりと休み、朝のお勤めに参加し、精進料理をいただき、心休まる時を過ごしました。Wi-Fi が繋がりにくいことや英語表記がほぼないことなど、それを不便と感じるかどうかは旅行者次第です。英語ではなくとも、スタッフの行き届いたサービスの中で、喧騒とかけ離れ、厳かな雰囲気の中で身体と心を清められます。静寂のひと時を過ごしたい人に是非お勧めしたい宿坊です。

関西での数日間は、アメリカにいては想像もつかない、とても貴重な経験となりました。私が訪れた関西には、何百年と受け継がれてきた歴史と厳粛な自然がありました。いつの日かまた、この地を訪れる日を楽しみにしています。

テラハク
レポート

柔軟さも人気の理由。「休みに来る」ための宿坊

世界遺産の地・吉野山を望む宿坊に世界中から人が訪れる。運営の極意は「何でもやる」

先代が50年前に現在の地へ仏舎利塔を勧進し、寺院を開いた。麓の近鉄大和上市駅から山道を登って参詣する

静岡県 長居したくなる宿

静かな環境と応対力で長居したくなる宿に

日本第一の霊場と謳われ、世界遺産にも登録されている吉野山を望む高台に、世界中から人が訪れる宿坊がある。「歴史や自然など、吉野山を訪れる目的はいろいろありますが、当寺院を訪れる人の目的は、宿泊なんです」と言うのは、寺島法瑞（ほうずい）住職。2017年に始めた宿坊は利用客の8割が外国人と、ワールドワイドな展開だ。

ここには、大きく二つの魅力がある。一つ目は、ゆったりと過ごせる静かな環境。吉野山のランドマーク・金峯山寺蔵王堂も見える、テラスを備えたカフェ。敷地内にウッドデッキもある。「休みに来てほしいから」と、写経や勤行への参加、講話は希望があれば受け付けている程度だ。

二つ目の魅力は、徹底した宿泊前コミュニケーション。まず相手の要望を聞き、できることとできないことをしっかり伝える。宿や食事についても説明し、納得してもらったうえで訪れてもらうようにしている。宿泊客の応対を一手に引き受けている奥様の誉知子（よしこ）さんは「相手が求めていることを早くキャッチして、提供できるものはしていきます」という姿勢で、そのうえで宿泊してもらうため、利用満足度は高いという。

そもそも宝塔寺が宿坊を始めたのは、「危機を感じていたから」と寺島住職。20軒ほどの檀家さんが暮らす街は人口減、若者離れも進む。少しずつ墓じまいも始まった。その状況下で今後も寺院を運営していくには「何かしないとまずい」と思うに至ったそう。そこで敷地内の建物を改装し、誉知子さんがフラワーアレンジメント教室とカフェを3年前にスタートさせた。客層は老若男女、年齢も職業もさまざま。ほどなく、出会った人同士で楽しい会話が生まれる場になり、客同士の繋がりも生まれた。その後、近隣町村で宿泊需要が増している話を知り、それならば、と宿坊開始を決意。「この空間を楽しむことが旅の目的となり、気が済むまで滞在してもらえる宿」を目標にした。それゆえ、先述のコミュニケーションスタイルが生まれたのだ。時には、近隣住民を交えたＢＢＱが始まることがある。宿泊客が一人の時は、住職夫妻と夕飯を共にすることも。その柔軟性もあってか、ゆっくり連泊する利用者が増えている。

テラスの前には竹林が広がり、風に揺れる笹の音が心地よい。ウッドデッキは枝垂れ桜の下に。春に人気の場所。大和仏舎利塔の前からは、遠くに吉野の山々と蔵王堂が見える

先代の住居だった建物を改装し、1階はカフェ、2階を宿泊に供している。客室数は3部屋。食事はカフェで用意する。日中をカフェのテラスで過ごす人も多い

寺島住職と奥様の誉知子さん。「ここがたくさんの人の集いの場になれば」と、寺院運営から宿泊まで、二人三脚で対応している。「ここにいて世界中の人と触れ合えるのが楽しい」と誉知子さん

宿泊する際には夕食利用の有無を確認する。夕食は決まったメニューではなく、近隣農家から仕入れる野菜などを使い、吉野の季節を感じてもらえるように考えているそう。グラタンが名物だが、時には茶粥を用意することもある

1階は手前がフラワーアレンジメント教室、奥にカフェ。カフェでは自家製酵素ジュースなども提供している

日蓮宗
大和仏舎利塔 宝塔寺
〒639-3111
奈良県吉野郡吉野町上市1945
TEL：0746-32-5055
http://www.cafe-lesvagues.com/houtouji.html

宿泊で寺社と地域を元気にする
WEBサービス「テラハク」
http://terahaku.jp
TEL：06-6356-2090（株式会社 和空）

風まかせ

第21回

特別寄稿
野田博明

ポイントカードとお大師さま

四国霊場の車遍路から、
道半ばではあるものの
高野山・奥之院御廟へ向かう。
お大師さまの草創譚から
ご利益を、参道にて思う。

わが娘はレジの精算の際に、何かというとTポイントなる正体不明のカードを呈示する。ある時、恥を忍んでそれは何だい？と訊ねると、「ポイントだよ」とその簡に過ぎて潔いひと言でわたしは一刀両断された。このポイント制度なるもの、顧客の囲い込みに有効だとかで、世の中、どこもかしこもポイントだらけになっているのだという。

年寄りには利用法もよくわからぬ煩わしいだけの制度であるうえに、人間のさもしい物欲をくすぐるような商いのやり方がどうも気に食わない。そもそも購入時に、ただ割り引いてやればよいだけの話なのだから。

そんな時代遅れの私は2016年の初夏、八十八番札所の大窪寺を発願寺とする四国霊場の車遍路をスタートさせた。それは逆打ちといって、通常とは逆のルートで大窪寺から阿波の一番札所、霊山寺を目指し巡礼してゆくものである。

閏年に逆打ちをすると順打ちより3倍のご利益があり、しかも遍路の途上でお大師さまに巡り逢える特典までついているのだという。さらに60年に一度の丙申年の逆打ちは最もご利益があるとかで、それに乗らぬ手はないと世の老若男女が大窪寺めがけて押し寄せるのだそうだ。実際に、その年のお遍路グッズは霊山寺の売り上げが減り、大窪寺が伸びるというのだから世の中、現金なものだと慨嘆してみせる私だが、逆打ちに挑んだ2016年こそ閏年の丙申であった。

正直に言おう、私も人の子、せっかく廻るならご利益ポイントの高歩留まりの時がよいに決まっている。ポイント3倍とかアイドルの握手会ならぬお大師さまと対面できる特典付きといった誘いに手もなく籠絡されたわけである。

お遍路の世界にこんな俗っぽい商法があるなんて、少々驚いたが、遍路という禁欲的響きが途端に身近なものに感じられたのも本当である。

1

2

そもそもの遍路もすでに2年の歳月が過ぎた。東に温泉あれば湯治に憩い、西に古社あれば神さまに二拍手といった自儘な遍路行のため、未だ二十八ケ寺を巡るにとどまっている。だから、ポイント3倍はともかく、お大師さまにお逢いする気配は微塵もなく、まして握手などとんでもないといったところである。

それなら当方からネグラへ押しかけ、弘法大師に会おうではないかと高野山へ登った。というのも、奥之院の御廟には永遠の瞑想に入った大師が今も居住されているというのだ。その証に、この千二百年間、毎日2度の食事が欠かさず届けられ、衣装替えも年に1回行われるというのだから、その信憑性は半端ないのである。

本来、高野山へは遍路の結願の後、満願成就を報告にいくのが正式な手順である。が、そこは気は心と言おうか、前もって礼を尽くすに如くはないと、掟破りの高野行となったのである。

3

高

野山の草創については、空海の詩文集・『性霊集』に少年のころ、吉野山に入って南に一日、さらに西に二日ほど行ったところに四方を高山に囲まれた平原の幽地を見つけ、そこを高野(たかの)と名付けたとある。また、平安後期の説話集である『今昔物語』や『打聞集』には、唐からの帰朝を前にした空海が日本に向けて、禅定(真理の観想)の適地に落ちよと法具の三鈷杵を投げ、帰国後、その地を探し求めた。そして、高野明神と丹生明神に導かれて高野山へ辿り着いたと描かれている。

標高900mの高地にひろがる宗教都市の中核をなすのが、土盛りされた壇上伽藍である。その中央には朱色も鮮やかな根本大塔が聳え、傍らに唐から投げた法具が掛かっていた三鈷の松が生えている。説話集では松は「檜」で、コウヤ山は「タカノ山」とされているが、寡聞にしてどこでどう変じたのか分らぬが、弘仁七年(816)、空海は密教の根本道場としてこの地を嵯峨天皇に請い、下賜された。そして、金剛界・胎蔵界両部の曼陀羅世界を創りあげたのが、壇上伽藍の寺院建造物の数々である。なかでも、根本大塔の眩いばかりの内陣は密教の宇宙観を立体化したもので、中央の胎蔵界大日如来を本尊とし、四囲に金剛界四仏が安置されている。

そして、弘法大師が62歳で入定されたところが、奥之院の御廟というわけである。表参道の入口となる一の橋を渡って北東へ石畳を2kmほど歩くと御廟橋の先に燈籠堂、その背後の深い木立のなかに御廟が鎮まっている。

御廟のなかへは大師の入定後、49日目に弟子たちが入ったのち、百年後に東寺の長者であった観賢僧正が入室したのを最後に扉を開いた者はいない。今昔物語は観賢が室に入った時、大師の髪は一尺ほど伸びており、剃刀で剃り、数珠を整え、衣を替えて退室したとある。その後は足を踏み入れる者もなく、参拝人が来るたびに祠の扉が少し開き、静謐のなか山が鳴るような不思議な音がするという。そんな御廟の前に立ち、合掌していた時である。チルルルッという高く澄んだ力強い啼き声が森に響き渡ったかと思うと、目の端を小さな影がよぎり燈籠堂の軒先に留まった。こげ茶色の小さな鳥は西洋において鳥の王様とされるミソサザイといって、姿を目にするのは極めて珍しいのだという。その王様と目が合ったと感じた刹那、さっと姿をかき消すように森の奥深くへと飛び去った。

御廟の扉は相変わらず閉まったままであったが、智恵者とされるミソサザイが眼前に顕れ出たのはお大師様の化身だったのかもしれない。森閑とした杉並木の参道を戻りながら私はポイント3倍も満更、捨てたものではないなと胸中でつぶやいていた。

4

5

野田博明
のだ ひろあき

昭和26年生まれ。東大卒。日本興業銀行広報部長などを経て、現在、一般社団法人全日本社寺観光連盟理事。平成27年文化庁・観光庁共管の「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」、平成29年文化庁の「文化財の多言語解説等による国際発信力強化の方策に関する有識者会議」の委員。

高野山の大門前にて

1. 四国霊場第88番札所・大窪寺本堂と女体山　2. 高野山・壇上伽藍の金堂

3. 右から壇上伽藍の金堂・三鈷の松・根本大塔・御影堂　4. 恵光院・朝の護摩勤行　5. 奥之院御廟橋と遠くに燈籠堂

JTB

感動のそばに、いつも。

人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。

ドローンで撮影した三井寺（園城寺）。P9に関連記事

寺社Now

Vol.21

編集後記

「集まった人を、参拝者にしていきたい」とは、P23で紹介している青木氏の言葉。イベントで集客しても、その人達は参加をきっかけに今後も寺社に参拝してくれるだろうか。「寺社の心を伝えること」という、寺社観光を考える時に忘れてはならない心をいただき、気が引き締まりました。（H）

デスクに1本の嬉しい電話が。ある地方で超宗派のセミナーを定期的に開催しているそうで、次回「クラウドファンディング」をテーマに19号の特集でご紹介した神社の宮司様をゲストに招聘することが決定したとの旨。弊誌をご活用いただき、洵にありがとうございます。編集冥利につきます。（W）

無料送付の継続希望・お問合せ

一般社団法人
全国寺社観光協会 本部事務局

TEL：06-6360-9838 FAX：06-6360-9848
e-mail：info@jisya-kk.jp

「寺社 Now」無料送付の継続をご希望の場合、[寺社名・氏名・住所・電話番号] をご記入のうえ、上記 FAX またはメールアドレス宛にお送りください。ご意見・ご感想もお待ちしております。

バックナンバーが
WEBでご覧いただけます

jisya-now.com

または 寺社NOW 検索

次号は
11月発行の
予定です。

監修
一般社団法人 全日本社寺観光連盟

発行人
一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力
株式会社 glass

発行所
一般社団法人全国寺社観光協会（事務局）
〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満 1丁目11番13号
AXIS 南森町ビル 11F
Tel : 06-6360-9838 Fax : 06-6360-9848

寺社 Now
第 21 号 平成 30 年 9 月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。発行人の許諾なしに複写（コピー）したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。

寺社Now Vol.21

【監修】一般社団法人 全日本社寺観光連盟 【発行】一般社団法人 全国寺社観光協会 （事務局）〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号 AXIS 南森町ビル11F Tel:06-6360-9838 Fax:06-6360-9848

挑戦の数だけ、保険がある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a ***Good Company***

東京海上日動

JAPAN

TOKIO MARINE NICHIDO

JOCゴールドパートナー（損害保険）